

ぼくらのまち



田子浦小学校
6 年
望 月 光 明

わたしたちの市は、南に駿河湾、北に富士山と自然にめぐまれた土地だ。わたしたち人間は、この自然をおおいに利用し、今日の富士市を築きあげたのだ。

今、わたしたちの住む富士市は、県下で第2位という大きさの工業都市となったが、その反面、公害というものを作り出してしまった。

わたしたちにあたえられたしめいは、この公害を、どうしよぶんしていくかにあるのだと思う。それには、けつして他人まかせではいけない。なぜならば、公害とは工場だけが出すのではなく、わたしたちがなんとなく川にゴミをすてるのも、それも公害だからだ。富士市民が総ぐるみで公害に対して、よく考えていけば、いつしか公害もなくなることだろうとぼくは思う。

また、工業だけでなく、農業にも力を入れたらどうかと思うのだ。たとえば水田だが、農家の人たちが協力して、せまい田をひとまとめにし、大きな田を作つて田のせわをすれば、自然と仕事もはかどることだろうし、農業の機械化も楽に行なうことができるのではないかなと思う

公害の問題も、農業の改革も自分の利益だけを考えてはいけけないのだということが言える。つまり、富士市を發展させ、住みよい町にしていくには、他人まかせや、自分の利益だけを考える、ということのないようにしなければいけないと思う。

市政モニター提言



目にあまる広告

…市が独自でもっと
厳しい取り締りを…

市内のいたるところに多種多様な広告が掲示されている。電柱、空地、駅などわたしたちが目をするところには必ずといっていいほど広告がある。しかも、その大部分はただたんに営利を目的としているため、見るにたえないものが数多い。

もちろん、料金は払っているだろうけど、〇〇会社、〇〇商店など、どの電柱を見ても広告だらけ……。もつと厳しい取り締りをやつてほしい。国、県の関係であるというなら、市が独自に取り締りの方法を考えてもいいのではないかな。た

とえば、看板広告をだすときは公益性のある標語などを一緒にだすことを義務づけることも一つの方法だと思う。

ヘドロで全国に悪名をはせた富士市はせめてこの辺で他の模範となるような独自の取り締り方法を考えてほしい。こうした前進的な考え方が「住みたくなる富士市」をつくるのではないかな。

公共物に掲示してあるものはもとより、電柱や駅など公共性の高いものに掲示してある広告などは、この際すぐ検討してほしいと思う

なお、町角で子どもに見せたくない看板をよく見かける。あまり

に営利本位なもの、興味本位のものは厳しい取り締りをし、子どもたちの心を傷つけることのないようにしてほしい。

(駿河台・川口政美)



【広告などはもつと厳しい取り締りをしてほしい】

ぼくらのまち



吉原小学校
6 年
佐 藤 裕 一

ぼくのうちのものほしに登ると、雪げしようも美しい富士山が、ぱつととびこんでくる。毎日見ているのだけれど、いつだつていいなと思う。特にこのごろ

のように、毎日よい天気だと、富士山もごきげんで、山全体をすつきりとみせてくれる。

日本一高く、日本一美しい富士山。富士市に住む人たちのうちから、富士山はどこからでも見えるのではないかな。

「富士市」その名のごとく富士山は、富士市のシンボルといつてもいい。でも富士山を背に、南の方を見わたすと、高いえんとつが林のようにならんでけむりをはいている。これが大気汚染の原因をつくっているのだな。

南にひろがるするが湾には、ヘドロで全国的にその名をはせた田子の浦港があ

る。でも、ぼく達の富士市は、製紙の町として古くから發展してきている。紙といえば富士、富士といえば紙。富士市で生産される紙が、新聞紙、ボール紙、印刷紙、そしてぼくの使っているノートにまでつながつてくるのだ。

西にむかつてみよう。ぼくの家すぐ前に吉原中央駅がある。毎日きだされたり、すいこまれたりするお客さんの数はすごいものだ。富士市を縦横に走る道路。私鉄も南と北をむすんでいる。東名高速道路も、富士市の北よりを白く走っている。これが、ぼくの家のもものほしから見たぼくの町「富士市」だ。